

## 第2回 がん市民公開講座



平成27年11月22日、鹿児島県医師会館大ホールで開催しました。今回は、「がん」になってもより良く生きる」というテーマで、私の専門分野の頭頸部がん、緩和ケア、がん相談等による患者支援を中心とした内容としました。テーマが頭頸部がんに関わるものであったので、市民の皆様のニーズがどれほどあるか不安でしたが、240名の一般市民の方に参加いただけ、盛会に終えることができました。

今回は、まず、病院で毎月行っている「患者サロンコンサート」を「四つ葉のクローバー」の皆さんに行っていただきました。歌やピアノ演奏で和やかな雰囲気となりました。並行して、医師の協力も得てがん相談支援センターのメンバーが国立がん研究センターがん対策情報センターから借用した法被をはおり、がん相談ののぼりを立てて、「がん相談」を行いました。10名の方の相談をお受けすることができ、当院のセンターが市民に開かれた相談を受ける場とアピールできたかと思えます。

講演は、花田修一院長の開会挨拶後、講演Ⅰとして、「より良く過ごすために～食べる事・話すこと～」を鶴川俊洋（リハビリテーション科医長）、養田尚美（看護師長）の座長で、当院での頭頸部癌治療への多職種での取り組みを講演しました。内容は、①舌やのどのがんについて（西元謙吾耳鼻咽喉科医長）、②がんの治療とリハビリテーション（田場要言語聴覚士）、③食生活を豊かにするヒント（廣石さやか管理栄養士）④口の中のケア（中村康典口腔外科医長）でした（講演の要旨は鹿児島医療センターホームページに掲載）。

講演Ⅱは、医療法人ひばりホームホスピスひばりクリニック院長森井正智先生に「もし末期がんになったら～あなたは人生の最後をどこで迎えたいですか～」という特別講演をしていただきました。人生には必ず終わりがあつて、自分で決めて早めに準備する必要がある、愛する家族に看取ってもらふことなど普段避けがちな内容をユーモアを交えながら、今回のテーマ以上の、「がん」になってもより良く生きる」という内容だったように感じました。

最後に全体での質疑応答を私と池田智子（看護師長）の進行で、フロアからの多くの質問に講演者、会場内の病院スタッフが答える形で行い、院内全体の取り組みであると確認できました。

事後アンケートでは、コンサート、がん相談、講演Ⅰ、Ⅱの内容と好評の意見が多く、市民の皆様にとって有意義な講座となったのかなと思えました。最後に、共催の塩野義製薬（株）、後援各所（鹿児島県、鹿児島市、鹿児島県医師会、鹿児島市医師会、鹿児島県歯科医師会、南日本新聞社）、多大な協力をいただきました院内スタッフにこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

（文責：耳鼻いんこう科部長・がん相談支援センター長 松崎 勉）



### ■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号  
 (代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 薩田・谷口・田上・吉永・鷺頭・吉留・山口・櫻木・宮崎  
 【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・杉本  
 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476  
 ※休日・時間外は当直者で対応します。



連携室だより

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2016.1 vol.117



## 新年明けまして おめでとうございます。

平成27年を振り返ってみますと、県内では5月に口永良部島で爆発的噴火が起き全島避難、6月の記録的大雨、8月には桜島の噴火警報レベルが4となりました。11月には薩摩半島西方沖を震源とする地震があり、鹿児島市でも震度4を観測しました。病院管理者としては、病院の防災管理のみならず、地域の防災についても種々考えさせられた年でした。また国内的にも、国外でも多くの問題が出てきた年でした。

病院の現状について記します。平成26年度は、救急入院を含めた入院患者さんが増加し、年度後半から週末を除くと入院病室の確保に苦慮する状況で、救急患者さんをお断りせざるを得ないといった状況が再々あり、ご迷惑をおかけしました。27年4月まではそのような状況が続いていましたが、本年度の目標の一つである在院日数の短縮により、急患対応も昨年に比べますとかなりスムーズにできています。しかし、11月後半から循環器の急患が増加し、今後脳卒中の急患が増えることも予想されます。26年度のようなことがないように努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

急速な高齢化を迎え、主病以外に多くの合併症を持っておられる患者さんや、認知症を有する患者さんの入院が増えてきました。入院期間は今後さらに短縮することを求められ、この短い入院期間に十分な医療を実施、連携先の医療機関にお帰りいただくという為には、現在の診療科のさらなる充実を踏む必要があります。その一つとして、循環器医療の診療充実を目指したハイブリッド手術室の整備を行うことになりました。ハイブリッド手術室は、手術台と血管X線撮影装置を組み合わせた治療室で、1) 胸腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設は指導医の在籍と実施施設の申請を行い承認された施設（鹿児島県：鹿児島大学病院、鹿児島医療センター）で行われていますが、ハイブリッド手術室を整備することで胸腹部大動脈瘤ステントグラフトをより安全に行える 2) 経皮的冠動脈インターベンションと冠動脈バイパス術とを組み合わせることができる 3) 大動脈弁狭窄症に対する経皮的カテーテル大動脈弁置換術ができる 4) エキシマレーザーシースによるペースメーカーリード抜去術ができる 5) 閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術とバイパス術の組み合わせなどができるようになります。現状は、患者さんは他県に行かざるを得ない状況にありますので、ハイブリッド手術室完成時には施設基準を取得し、鹿児島県内で対象患者さんの治療が完遂できる様さらに連携を強化する予定です。また外科系病棟にハイケアユニット（HCU）も整備します。

新規診療科の開設についても、この数年間で口腔ケアを専門とする歯科口腔外科、がん薬物療法を専門とする腫瘍内科、皮膚腫瘍を専門とする皮膚腫瘍科など新しい診療科も立ち上げました。院内外からさらなる診療科の増設の希望が強いですが、現状の外来棟ではいかんともしがたい状況にあり、外来棟も増築することとなりました。

ここ数年減少していた当院管理型の初期研修医の先生たちが、27年度7人に増え、最も多かった平成21年度の8人に次ぐ数となりました。28年度の初期臨床研修のマッチング者は13名となり、28年度は27年度以上の初期臨床研修医の増加が見込まれます。初期臨床研修の充実に加え、新専門医制度に対応した教育体制の整備も必要です。また、現在の診療科が必要としている医療機器の整備もさらに必要となります。医師のみでなくコメディカル部門の地域に開かれた研修や、市民公開講座の一層の充実も課題です。地域医療構想や、厳しくなる診療報酬改定など医療界は大変な時代となってきていますが、真に地域に必要とされる病院になれるよう職員一丸となって努力して参りますので、本年もどうぞよろしくお願い致します。

（文責：院長 花田 修一）

# 幹部年賀状



副院長  
今村 純一

明けましておめでとうございます。昨年は医療界にとって厳しい1年でしたが、皆様のご支援とご協力により当院の経営上の赤字も何とか乗り越えられる目途がつかしました。深く感謝申し上げます。しかし国立病院機構の多くの病院が前年に比して芳しくありません。

【総額40兆円】国民医療費は年々増加の一途を辿って、ついに総額40兆円に達しています。進みゆく高齢社会の社会保障制度は保たなくなるといふ危惧もあり、これに対する国民の目も厳しいものがあります。国はこの医療費の伸びを抑制することに躍起となり、今年の診療報酬はマイナス改訂もやむなしとしています。

【医療界の自己矛盾】他方では、医療・介護施設は経営努力を行い赤字にしなければならぬという宿命を帯びています。医療界自体がある意味、自己矛盾に満ちています。経営側からみると、患者一人の一日入院単価を少しでも上げることが医療者の診療・経営努力の賜物であるということになります。しかし、それは結果的には国民医療費の増大に繋がります。国の医療経済と医療経営はお互いに相容れないベクトルをもったものです。

今年からは診療報酬改定や、来年の消費税10%への増大などの難局に対処する必要があります。様々な困難の中で我々の行くべき道はどのようにあったらいいのか？悩んでしまいます。経営努力は必要ですが、そればかりであってはならない。医療は元来、商業主義的拜金主義に陥ってはならない（公益性、非営利）と言う、医療者の原点を忘れず、ひたすら患者さんに奉仕する、その清廉さ integrity を持ち続けたい、そうした清廉さこそが当院の特徴にもなって欲しい。そんなことを思いつつ過ごした年の瀬でした。

年の初めに少々小うるさい挨拶になりご容赦ください。また賛否両論あろうかと思ひます。色々のご指導願えればと思っております。今年も宜しくお願い申し上げます。



統括診療部長  
森山 由紀則

明けましておめでとうございます。いつも当院の運営にご理解をいただきまして有難うございます。

今日の病院経営は国公立、民間を問わず大変困難な局面を迎えています。高度の急性期医療を担っていくためには施設設備への投資は欠かせません。今年待望のハイブリッド手術室の増設が認められました。経カテーテル大動脈弁置換術をはじめ循環器疾患の治療の幅を拡げる大変有用な設備です。医療技術の進歩の果実を広く患者さんへ届けるために病院を挙げて取り組んでいきます。技術の進歩は日進月歩で、各診療分野で革新的な技術開発が積極的に進められています。病院機能を高めていくためにも、職員の motivation を維持していくためにも、限られた予算を効率的に投入（選択と集中）していくことが必要です。そのために、院内に向けてはこれまで以上に各診療科間の意思疎通と協力を図っていくことに力を尽くしたいと思います。また、今年2025年に向けた医療提供体制の見直しを含む果敢とした医療構想が策定されるはず。安心できる地域医療を築くためには、当院が急性期病院として責任を果たすことは当然のことながら、治療後の患者受け入れも含めて地域包括ケアシステムを充実させることが一層重要となります。今後とも皆さんと手を携えてさらなる病病、病診連携の強化に取り組んでいく所存です。今年もご協力の程宜しくお願い申し上げます。



臨床研究部長  
城ヶ崎 倫久

新年あけましておめでとうございます。

昨年を表す漢字は「安」でした。安全保障関連法案の可決による「安」のイメージが強いと思いますが、自然災害や飛行機事故、テロ関連のニュースが多く、不安になった1年でしたので、もっと安心したいという意味の「安」かもしれません。

さて、国立病院機構の131病院に臨床研究センター、臨床研究部、院内標榜臨床研究部があります。1年間の研究業績を①国立病院機構が推進している治験・EBM推進のための臨床研究等②競争的資金獲得額③特許・知的財産収入④業績発表・独自研究の点で評価されているのですが、昨年は全国19位と素晴らしい成績でした。九州の国立病院機構の中では九州医療センター、九州がんセンター、長崎医療センターに続いて4番目の成績です。多忙な日常診療業務の合間に臨床研究を遂行してきた職員全員の力が結集されたもので、敬意を表したいと思います。

また、臨床研究部は鹿児島大学大学院医学総合研究科の連携大学院（講座名：生理活性物質制御学）になっていますが、現在2名の大学院生が当院で働きながら研究しています。2人の研究も今年が正念場です。世界に情報発信していけるように頑張りたいと思います。

今年もよろしくお願い申し上げます。



メディカルサポートセンター長兼  
地域医療連携室室長  
藺田 正浩

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、第4回地域医療連携懇談会で貴重なご意見やご支援をいただき、また患者様のご紹介、受入れ等にご協力いただきありがとうございました。

メディカルサポートセンターはこれまで通り、地域医療連携室（医療福祉相談、転院・退院相談）、入院支援（入院時早期ケア・相談）、がん相談支援センターの三本柱で運営していきます。今年も病院訪問や連携室便り「鹿児島医セン」にて、院外向け研修会の開催、病院紹介などの記事を毎月紹介していきたいと思ひます。

当院は、最先端の医療を目指すとともに、今後も地域医療連携を重点に、前方および後方病院の連携強化に努めてまいります。ご紹介患者や救急受入れ強化のために、ファーストコールの改善に努めてまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年も、「顔の見える連携室」を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長  
太田 春彦

新年明けましておめでとうございます。

日頃より当院の運営につきまして種々ご協力いただき厚くお礼申し上げます。

昨年本誌の新年挨拶に「医療連携は、診療・看護部門のみならず事務部門においてもその取り組みは重要なものです。」と記載させていただきましたが、おかげさまで、昨年1月には当院連携病院の事務長さん方との意見交換の場や6月には事務担当者の方々との勉強会の開催、10月の医療連携懇談会、そして日常における情報交換等、僅かではありますが事務部門の連携の推進が図られたのではないかと考えています。

今年、4月の診療報酬改定、地域医療構想策定により自院に求められる機能の明確化、さらには翌年に待ち受けている消費税の改正等、今後私ども医療機関を取り巻く情勢は大変厳しく混沌としたものになっていくものと思ひます。その中において、医療連携の推進は益々重要性を増していくのではないかと考えています。

今年も引き続き微力ながら公的病院・民間病院の垣根を越えた事務部門の連携強化を進めていきたいと考えています。また併せて、皆様方の役に立つ病院、信頼される病院を目指して事務部一丸となって取り組んでまいりますので、今年も何卒よろしくお願い申し上げます。



看護部長  
上別府 昌子

皆様におかれましては、それぞれの思いでこの「申年」を迎えられたことと存じます。

昨年中は何かとご支援、ご協力をいただきましてありがとうございました。

今年診療報酬改定の年です。「医療機能の分化・連携」が基本方針にあり、これまで以上に病床機能の適切な役割分担と連携についても更に改善する必要があるとみなされています。地域の皆様にご協力いただきながら、当院の地域で担うべき役割を自覚して、努力していく所存です。

看護教育は、専門性を活かした研修の公開講座や新人看護師研修、7分野14名の認定看護師による教育等対応できます。今年も多くの施設からの参加や要望をお待ちしております。

干支「申」は、果実が成熟して固まっていく状態を表していると言われております。皆様にとって実り多い年になりますよう心から願っております。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

## 【お詫びと訂正】

12月発行致しました広報誌No.116（4面 10行目）につき誤りがありました。

正しくは下記の通りです。

（誤）「理学療法士」

（正）「心リハ専従看護師」

迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

